

【ミッションステートメント】「いっしょに歩こう！プロジェクト」～日本聖公会東日本大震災被災者支援

- ① わたしたちは、東日本大震災により困難を負って生きる人々に敬意を払っていっしょに歩きます。
- ② わたしたちは、被災地の方々の生活と地域の再創造に向けていっしょに歩きます。
- ③ わたしたちは、主イエス・キリストが、共に歩いてくださることに励まされていっしょに歩きます。

釜石は梅雨入りし、何となく湿度の高い日が続いています。神愛教会・幼児学園の改築がついに始まり、礼拝堂の聖別解除や、引越しが行われています。震災支援の初期、支援センターが完成するまでお世話になった旧牧師館も取り壊されます。震災支援は様々な広がりを見せながら、ゆっくりとですが進んでいます。今後もみなさんのお力をお貸しください。どうぞよろしくお願いいたします。

【釜石神愛教会・幼児学園改築へ。引越し支援ツアー】

震災から1年半が経ち、神愛教会・幼児学園が社会福祉法人化に伴い、改築される運びになっています。場所によっては築80年を越える部分もあり、老朽化が著しく、安全性も問われていました。8月には着工、今年度中には完成する予定になっています。改築中は、7月17日から小川(こがわ)にある閉園になった幼稚園をお借りして、神愛幼児学園を運営します。本格的な引越しは7月14日・15日に行われますが、その準備(仕分けや、当面使わないものを運ぶ作業)の支援のため、7月5日(木)～9日(月)の日程で“引越し支援ツアー”が行われました。チャプレンとして吉野執事が同行し、山崎典美・直子夫妻、札幌キリスト教会から澤田俊雄・平子夫妻&丹政清・麗子夫妻、そして大町出さん、聖マーガレット教会より川北キヌさん、木村登美子さんの計10名が参加されました。特に澤田さん・山崎さんには車を提供していただきました。2台とも大活躍でした。ありがとうございます。今回は澤田俊雄さんと、丹麗子さんに感想をいただいていますので掲載いたします。

「釜石神愛幼児学園引越しツアーに参加して」

札幌キリスト教会 澤田俊雄

大震災が発生して1年4ヶ月が経ちました。何か小さな働きでもできればと考えておりましたところ、今回、7月5日からの「釜石神愛幼児学園の引越し支援ツアー」が企画されて居ることを知らされ、この企画に参加する機会が与えられ感謝しています。

この幼児学園は、大町司祭様のお父さまが通園されていた学園とお聞きしました。また、今年創立81周年という記念すべき年に、81歳のわたしがお仕事に立ち会えるのも神さまのお導きがあったのでは、と感じています。

今回は吉野執事をチャプレンとし、山崎典美さんを作業責任者・会計とした10人グループで、両者のリードのもとで作業が始まり、園内の物品については園長先生の指示により仕分け作業を行い、必要物品は仮の学園に搬送、旧牧師館(乳児保育室等)内の整理・清掃また、支援センターへの大型の物品の搬送も行いました。これに要したエネルギーは大きく、吉野・大町(出)青年の頑張りには脱帽でした。作業は予想以上に順調に進み、午後は支援センターの支援品の整理の手伝いもできました。

まだまだ復興には程遠い状態ですが、被災者の方々がのおのの場で再建に向けてがんばっておられる様子が伺え、みなさんとの今回の作業もその足しになればと思いました。

ツアー期間中、仕事に不慣れな新人のわたしたちがお世話になった神愛幼児学園の先生、釜石支援センターの皆様、同行された吉野執事他関係された皆様に感謝申し上げます。

「釜石神愛幼児学園 引越し支援ツアーに参加して」

札幌キリスト教会 丹麗子

わたしに参加させていただいたボランティアは、釜石神愛幼児学園の仮園舎への引越し荷造りを中心とした活動でした。今まで多くの方の支援活動を、東日本大震災支援室ニュース等で目にし、経験された方のお話をじかにお聞きしてから、「わたしには何ができるのか？ できることがあるのだろうか」と、いろいろ考えていました。しかしこれといった特技や資格・経験もないわたしには無理なのでは？ と考えるようになっていたところでした。それが今回の支援活動の場をいただき、突然のことで不安でしたが「頑張ればできるのでは。いいえ、せっかくの機会。この機会を逃しては」と気持ちを新たに、友人と共に初めての支援活動に参加しました。7月5日(木)札幌キリスト教会を出発し、苫小牧西港より八戸港へ入港、一路釜石支援センターへ。長い旅でしたが、道筋に見渡される被災地の詳しい説明もお聞きすることができ、陸前高田では想像以上の大震災の現実を目の当たりにし、自然災害の恐ろしさと災害に対する対応の厳しさを知らされました。わたしたちが訪れた時は、ほとんど瓦礫は整理され、まとめられて何箇所かに山積みになっていましたが、家屋などの基礎部分のコンクリートと、その中からむき出した錆びた鉄骨の姿、解体も困難な高層建築の残骸は、震災前の町並みを想像できるものではありませんでした。地盤沈下など、あらためて多くの被災者の方々の思いを、痛切に感じました。

その後の活動は、7月7日(土)・8日(日)と、午前中は主に図書類などの荷造り清掃を。車での荷物搬送作業は男性と若い方々がフル回転で作業は進みました。午後からは交代で支援センターへの訪問、1日目は支援活動の様子などをお聞きし、2日目は支援物資の整理・清掃等を行うことができました。その間、センターを訪れて来

られた被災者の方にもお会いでき、実際の体験談をお聞きしました。その女性の方は、新聞配達中に被災され、「津波の知らせで夢中で高いほうへと走った。途中多くの人たちが集まっている場所もあったけれど、もっともっと高いほうへと足が向き夢中で逃げた。でも一人きりの自分は心細くて不安だった。たどり着いて後ろを振り返ったときの恐ろしい光景は忘れることはできない。わたしは助かった。流された多くの方々の分、強く生きなければ」と話してくださいました。今もバイクで、今度はボランティアとして震災に関する情報新聞を仮設住宅などの家庭に配達しておられるとのこと。前をしっかりと見て話された彼女の姿が印象的でした。

センターに足を運んでこれない方々もたくさんおられるとお聞きしました。仮設住宅に閉じこもっておられる方々に対して訪問・支援物資などの配布を通しての心のケアなど、まだまだたくさんの支援活動が行われています。理解はまだまだ不十分ですが学習させていただきました。頑張っておられる支援センターのお働きに心より敬意を表します。また、今回のツアーにご一緒させていただいたグループの先輩のみなさんとの交わり・ご指導本当にありがとうございました。

【リベリナ教区青年団の活動】

オーストラリア聖公会のリベリナ教区より、16歳～20歳の青年4名が7月2日(月)～7日(土)の日程、釜石支援センターでの活動を行いました。パウロ熊坂登司祭とスー・チルバス執事が引率です。園で交流を持ったり、仮設住宅談話室でのプログラムに参加したりと、多くの活動をされました。釜石からはそのまま札幌に向かい、8日(日)の主日礼拝に出席後、教区事務所では北海道教区の青年たちとの交流会を行いました。札幌の教会を中心として多くの青年たちが参加、大いに交流を深めたようです。リベリナの青年たちは10日に札幌を立ち、成田経由でオーストラリアに帰国しました。ありがとうございました。

【ICU 劇団“虹”の活動】

北海道から ICU(国際基督教大学)に進学した大町はいりさんが所属する劇団サークル“虹”が釜石を訪れ、釜石支援センターに滞在し、7月6日(金)の神愛幼児学園での園児向けの公演、7日(土)の一般向けの公演の2つを行ってくれました。園児たちも大喜びで、大いに盛り上がりました。劇団“虹”は、福島・宮城・岩手で、9ヶ所の幼稚園・保育園・小学校・仮設集会所などを回りながら公演を行い、最後が神愛幼児学園での公演となりました。仙台では東北教区の聖クリストファー幼稚園でも公演を行いました。そのお働きに感謝いたします。

【釜石での働き】

※ 震災支援室ブログ(海老原さん・八幡さん発信)より抜粋

7月2日

やってきました。オーギーたちが。英語です。しかも声が大きいです。でもみんないい若者です。

今日は忙しい一日でした。まず月曜ですから談話室プログラムがある日です。午前の野田ではピザ作りにチャレンジしました。大変美味しくできたそうです。住民の方々が共同作業でお菓子や料理を作ることを続けていますが、コミュニティービルドにはよいプログラムのようです。午後の上中島はいつもの体操プログラム。健康第一です。チームAは八幡さんと須賀先生が担当でした。八幡さんのピザは美味しかったです。

チームKはオーストラリア・リベリナチーム。私とともに神愛幼児学園で交流会。楽しい歌や踊りの披露があり、絵本の朗読があり、最後は輪になって踊りました。楽しい時間になってよかったです。午後はそのまま視察へ。唐丹湾では大漁旗を掲げた漁船に感動し、その後ろの防波堤が壊されている景色に気づきショックを受けたオーギーたち。いろいろ感じているようです。センターはチームBが担当でした。メンバーは沢田さん。今日もしっかりとセンターを守ってくださいました。ご苦労様でした。(※註：文中のオーギーは、「オーストラリア」を意味する通称 *Aussie* の事です。)

7月3日

オーストラリアチームもワーク二日目。本日は午前が釜石保育園、午後が上中島仮設での交流会。プログラムの内容も練れてきて、釜石保育園は大盛り上がりでした。ありがたいことに我々へのプレゼントまで用意くださり、オーギーたちは超感動。一生の宝物にするそうです。よい交流ができました。釜石保育園のお友達・先生方、ありがとうございました。

午後は上中島です。今度は高齢者が中心。それでも30名近くが集まり、楽しい交流のひと時をもちました。歌と踊りを披露して、一緒に踊り、それからお茶っこです。言葉の壁はあったようですが、笑顔がこころをつなげたようです。遠くから自分たちを憶えて誰かが訪ねてくることがなによりも重要なことなのです。

7月5日

朝から雨です。本日はオーストラリアチームを率いて戸別訪問の予定でしたが、あいにくのお天気。オーギーたちもお疲れモードなので午前のワークはお休みに。でも我々の業務には休みはありません。八幡さんは明日の談話室プログラムの準備で買い出し。私はクリーンセンターに段ボールやゴミの搬入と平田の仮設で打ち合わせ。

午後になってお天気も回復。お届けする物資(リンゴジュース・GFSの飴・コーヒー・ポーロさんのエンジェル)をセットして、野田西仮設へ。オーギーによる戸別訪問です。通訳者の八幡さんと熊坂先生のチ

ームに分かれて、配布をかねての訪問。さすがにオージーたちはどこに行っても人気です。オーストラリアから来たと聞いただけで涙を流して喜ぶ方も。今日も素敵な出会いがありました。

ある方が「談話室には行きづらくて」と言っていました。このような方はどの仮設にも結構います。このような方と出合ってお話するのが戸別訪問の目的です。地道な活動ですが我々の重要なミッションなのです。

7月6日

超忙しかった一日でした。八幡さんとオーストラリア・リベリナチームは談話室プログラム、劇団虹チームは午前の神愛幼児学園での公演、センター業務は沢田さん、「〇〇は山に芝刈りに〇〇は川に洗濯に」そんなミッションです。私は幼児学園に。

談話室プログラムは大変盛り上がったようです。オージーたちが大活躍。午前の大畑も午後の松倉も「みんなでピザを作る会」でしたが作業の分担量も程よく、楽しいプログラムになりました。特に松倉は15名が参加して、異様な盛り上がりを見せていたそうです。みなさん感謝。

劇団虹の公演も大成功でした。釜天たちは大喜び。泥棒のお話しでしたが、小さな釜天には泣き出す子も。リアリティーの証です。私は途中で抜けて午後のプログラムの準備で買い物。お掃除道具を5セット用意しました。

午後のミッションは上中島仮設でのお掃除隊。高齢者などのお宅へ訪問してふだん行き届かない換気扇廻りやエアコンのお掃除その他を行いました。全部で34件。劇団虹13名を5班に分けて、その半分を済ませました。どのお宅もお菓子や飲み物を用意して待ってます。したがってお掃除が30分で終わっても、戻ってくるのはさらに30分後。でもそのコミュニケーションが大事なのです。けど夕方のスケジュールが詰まっているのでちょっと大変。(註：文中の「釜天」は、「釜石神愛幼児学園の天使たち」である園児たちの愛称です。)

7月8日

日曜日ですが、礼拝は神愛教会・幼児学園の引っ越し作業のため夕方に。ですからわりと暇な日曜日になるはずでした。やることはセンター業務、午前の虹チームの視察、上中島仮設お掃除隊の残り一軒、など。でも甘かった。センター業務、視察は問題なし。しかし幼児学園の引っ越しがセンターに波及しました。「これ、センターで使えないかしら」というやつです。それに伴いセンターもレイアウト変更。人数がいたので助かりましたが、妙に忙しい午後に。さらに引っ越しは我が家にまで波及。「これエビの家で使わないか」というやつです。でもありがたいことに必要なのにまだなかった物、たとえばガスコンロなどが来ることに。ありがたや。越後はにいがたや。(※註：文中のエビは、釜石センター長の海老原さんのニックネーム)

北海道教区引っ越し隊は獅子奮迅の働きでした。園の引っ越しはもとより、センターの掃除整頓もしていただきました。おかげで落ち着かないくらいセンターはきれいに。スペシャル感謝。センターはたくさんの人で担いました。虹の二人、沢田さん、引っ越し隊の8名ぐらい、などなど。ご苦労様でした。

【支援品のお願い】

釜石支援センターでは、被災者の方々のニーズに合わせて、支援品を様々な形で提供しています。震災から1年半が経とうとしていますが、まだまだ様々な形で支援品が必要な場面があります。皆様にもぜひご協力をお願いいたします。

現在あるニーズとしては、仮設住宅での戸別訪問プログラム用に、Tシャツが必要とされています。ただし、どうしても量を配布しなければならないため50枚以上でお願いします。企業名等が入っていてもかまいません。他には、いくつかの仮設住宅の談話室でホットプレートが必要、という話が来ています。もしご家庭で使わず眠っているものがありましたらご提供いただければありがたいと思います。また、夏物衣料なども引き続き募集しています。どうぞよろしく願いいたします。

【いっしょに歩こう！プロジェクト】

「いっしょに歩こう！プロジェクト」の活動の様子は、月一度発行予定の「ニュースレター」や、「いっしょに歩こうプロジェクト！」ホームページ<http://nssk.org/walk>で、ご覧いただけます。

【支援室の活動】

インターネットで支援室ブログが見られます。毎日の釜石ベースの活動もアップされます。<http://nsskhokkaido.blog89.fc2.com> 又は、「日本聖公会北海道教区ホームページ」→「東日本大震災」→「震災支援室ブログ」の手順でご覧下さい。

【震災支援室より】

◎ 支援室ニュースは、各教会において掲示下さると共に、増刷して配布ください。支援室ニュースのバックナンバーは、日本聖公会北海道教区のホームページにでも見る事ができます。

◎ 教会や個人での取り組みについても、お知らせください。他の教会の活動の参考になります。

【連絡・問合せ先】 電話：011-561-0451、ファクス：011-736-8377

Eメールアドレス：saigai@nssk-hokkaido.jp

【釜石ベース】〒026-0031 釜石市鈴子町5-4 「聖公会 釜石被災者支援センター」

☎0193-55-4524、090-6999-7840

Eメールアドレス：nssk311@yahoo.co.jp